

座間市



(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_座間市

【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要



自治体名		座間市 (神奈川県)	担当部局名	福祉部地域福祉課		人口	132,325 (人) <2020.10/国勢調査>
自治体内連携	庁内連携部局 (メイン)	福祉部地域福祉課		庁内連携部局 (メンバー)	市民広聴課、介護保険課、債権管理課など 10部19課 (現状)		
	庁内連携内容 ※会議体、情報共有	包括的支援体制構築ワーキンググループ (現状)		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	相談業務を中心に体制相談支援体制を検討し、全庁共有を行う。		

2.形成をめざす地方版連携PFの姿

従前の取り組み ※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	座間にはこれまでの“福祉”で取り組んできた「地域包括ケア」「チーム座間」などのネットワークがある。生活困窮を柱とする包括的な相談支援体制にいち早く着手し、福祉領域でのステークホルダーを独自に発掘、「NPO法人ワンエイド」、「はたらくざま」（生活クラブ生活協同組合等の共同企業体）、座間市社会福祉協議会などで構成される「支援調整会議」を月1回実施し、支援団体との連携、検討を継続して実施している。	実現したい状態 ※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境	最終的なゴール	孤独・孤立官民連携PFではこれまでの“福祉”の枠を超えた地域のステークホルダーとのプラットフォームによりこれまでの支援で抜け落ちていた層への支援の可能性を広げ、一見福祉とは関係のないと思われる団体や人にも気軽に参画・活躍できる枠組みを整備する。
			今年度のゴール	“福祉”の枠を超えて、行政をはじめ様々な支援団体に対して意識の変革を促し、より広い視点での相談支援に資するよう勉強会を通じて意識啓発を行う。

3.地方版連携PFの外部連携体制

地方版連携PF ※各種団体が「水平的」「包括的」に集う最も大きな枠組み	参画メンバー	地域住民を含めた直接的な支援者に留まらず「ふくし」的な取組を行っている団体（人）で構成
	選出・打診時の工夫	従来の支援体制の外の団体を引き入れるため「福祉支援」を前面に出さずに参加できるよう努める。
地域協議会 ※特に専門性の高い支援をおこなう団体等で構成	参画メンバー	委託事業者を含めこれまで市と連携し、伴走している支援団体をメンバーの軸とする。
	選出・打診時の工夫	自由な意見が言えるよう日頃から顔の見える関係性を構築する。

4.PF連携による価値や工夫_考え方

- 人と人のつながりを育む人の活動（例えばスナックやバー、書店、喫茶店等も）を広く“ふくし”と再定義、ソーシャルワークという言葉も脱構築して、地域の“ふくし”探しをする。
- 広義のふくしについては、時間的制約もあり、**取り組み方や、考え方を啓発するに軸を置き現状のネットワークの殻を破る足掛かりとする。**
- 既存の「チーム座間」については継続して取組を実施していくが新たなPFを課題の解消の一助とすることで更なる支援体制の拡充を目指す。

※主な関係者（自治体、連携先支援団体、住民等）、連携における取組内容、連携による提供価値等を記載



(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_座間市

【C.試行的事業一覧】

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

□ PF形成に向けて、これまでいわゆる“福祉”の文脈では関わりの少なかった市民や参画団体の巻き込みを図る。同時に、これまでの連携の基盤も活かしつつ団体の幅を広げる。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 アートによる社会参加の創出	• アートの力を活用して、生きづらさを抱え孤立している方の個性を評価し、社会参加へつなげる環境整備を実施。 (1) ワークショップ：アート作品の制作などを通じて、孤独・孤立を抱えている方へ「生きづらさ」に対する視点をポジティブに変えられるような体験をしてもらう。 (2) 大型展示：インパクトのあるインスタレーションを通じて、市民へ身近に生きづらさを抱えた方が存在することに気付いてもらう。 (3) 複数展示：アート作品を通じて、孤独・孤立を抱えている方および市民へ生きづらさの中にある魅力に気付いてもらう。 (4) トークイベント：アート作品に込めた、孤独・孤立に関する考え方・視点などについて、作家と行政担当者による座談会を実施。	✓ 目的 • 生きづらさを抱えて孤独・孤立を感じている方（ひきこもりや社会になじめない方）へ、就労以外の自己実現の場を創出する。 • 市民へ、生きづらさを抱え、孤独・孤立を抱えている方がいることを知ってもらう。 • アートに携わる方へ支援のネットワークに入ってもらう。 ✓ 期待効果 • 孤独・孤立を感じている方が自分の生きづらさを肯定的に捉えられるようになる。 • 孤独・孤立を感じている方に対して寛容な環境をつくる。 • 就労による自己実現だけでなく、生きづらさの中にある魅力を発見・評価できる体制を整備する。 成果検証結果 ➢ イベントの参加者数 • 1 Fロビー：1460人程度 • 7 階展望フロア：1070人程度 • トークイベント：120人程度 ➢ 参加者の満足度：およそ9割が「よい」または「とてもよい」と回答	✓ ワークショップ：1/30 ✓ 展示：2/20-2/26 ✓ トークイベント：2/24	現代美術家/ 鈴木康広 (約273万円)
2 啓発のための学習会	• これまで市で繋がりのなかったステークホルダーの巻き込み、これまでつながりがあった団体と新たな団体の関係構築・連携強化を狙いとして、支援する側の団体・組織をターゲットとしたイベント形式の学習会を実施。	• PF参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識・理解向上を図る。 成果検証結果 ➢ 参加団体間での具体的な連携の創出	✓ 2/4	(株)グランドレベル (約91万円)

7.次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- 孤独・孤立を抱えている方が、就労以外の方法で自己実現をするための支援体制の整備
- PFでの勉強会の継続的な実施
- アートでの社会参加の創出

8.孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ✓ 以下の媒体にて「アート展示」、「ワークショップ」に関する報道がなされた。
 - 美術手帖、artscape、Tokyo Art Beat（ウェブ）
 - 毎日・神奈川新聞、タウンニュース
- ✓ アート展示やワークショップでアンケートを実施し、参加者からFB受領

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_座間市

【C.試行的事業】_1.アートによる社会参加の創出

概要

- ・ 名称：現代美術展「空気の人／分光する庭 鈴木康広」
- ・ 日程：2024年2月20日（火）-2月26日（月）
- ・ 会場：座間市役所ロビー（1階）・展望フロア（7階）

工夫点

- ・ アートを通じて、これまで孤独・孤立問題や福祉に関心が少ない住民も含めて参加者に、孤独・孤立に関する視点・問題意識をもつきっかけとしてもらう。

結果

- ・ イベントの参加者数（1フロア：1460人程度／7階展望フロア：1070人程度／トークイベント：120人程度）
- ・ 満足度：およそ9割が「よい」または「とてもよい」と回答

ねらい

- ・ 住民やPF参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識の共有及び理解向上を図る。
- ・ 生きづらさを抱える方にネガティブな個性の魅力に気づいてもらう。

プログラム内容

- ・ 現代美術展「空気の人／分光する庭」
- ・ ワークショップ
- ・ トークイベント「見えない個性を発見する」
- ・ ギャラリーツアー



■ 空気の人（大型展示）



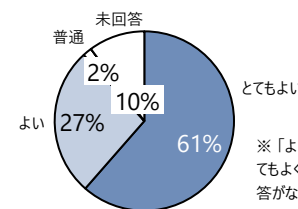
■ トークイベント



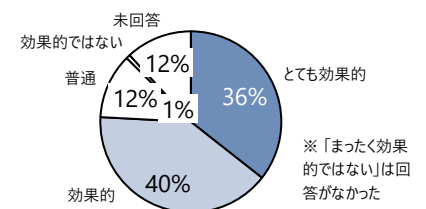
アンケート結果

- ・ アートによる孤独・孤立へのアプローチについて → 8割弱が「効果的」と回答
- ・ 新しい気づきや考え方の変化について → 8割以上が「変化があった」と回答
- ・ 生きづらさや個性の多様化について → 8割弱が「興味をもった」と回答

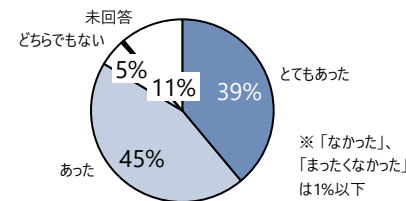
■ 現代美術展の満足度（N=542）



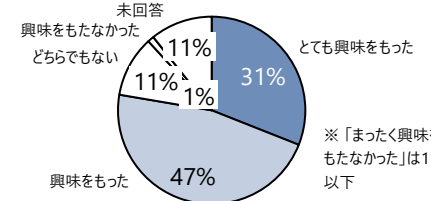
■ アートによる孤独・孤立へのアプローチについて（N=542）



■ 新しい気づきや考え方の変化について（N=542）



■ 生きづらさや個性の多様化について（N=542）



■ アンケート内容（自由記載一部抜粋）

- ・ 孤独・孤立という見かけにくいテーマもアートにすることで非常に敷居が下がった。
- ・ 世の中には様々な生きづらさや色々な個性があり、作品を通じて新鮮なアイデアや視点を得ることができた。

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_座間市

【C.試行的事業】_1.アートによる社会参加の創出

概要

- ・ 名称：現代美術展「空気の人／分光する庭 鈴木康広」
- ・ 日程：2024年1月30日（火）午前/午後
- ・ 会場：プラっとざま

工夫点

- ・ ひきこもり状態など孤独・孤立を感じている当事者と一般参加者で協働作業を行い、福祉的なものではなく、アートの視点から個性の評価を行う。

結果

- ・ 支援する側・される側ではない個性の評価を通じて、当事者の生きづらさへの感じ方の変化があった。
- ・ 一般参加者にとって、孤独・孤立に関する理解・認識向上や視点の変化など気づきがあった。（下記に記載）

ねらい

- ・ 「普通ではない」とネガティブに捉えている個性の魅力に気づいてもらう。
- ・ 一般参加者に孤独・孤立の問題が当たり前にあるものだと思い込んでもらう。

プログラム内容

- ✓ 「2人の境界線を引く」（参加者：14名）
 - ・ 参加者それぞれが「座間」でイメージする色の色鉛筆を半分に削り、重ね合わせることで一つの線を引く。
- ✓ 「好きと嫌いの詩」（参加者：15名）
 - ・ 参加者それぞれの“好き”と“嫌い”を書き出し、共有し、それぞれの詩を作る。

■ ワークショップの様子



アンケート結果

- ・ アート作品を通じて、孤独・孤立の問題意識を持つ、人とのつながりを感じるきっかけとなる、自己表現の可能性を感じるなど、参加者の孤独・孤立に関する意識の変化のきっかけとなった。

主なコメント

- ・ 「好きと嫌いの詩」の色々な詩を読んでみて共感する部分が多く、実際にはその詩を書いた人と会って話しているわけではないが、なんだかつながっている気分になった、孤独・孤立へのアプローチとして非常に効果的だと感じた。
- ・ 普段意識していないような事柄でも他の人は好嫌を感じていたり、感じ方や視点が沢山あり面白い。アートという場にする事で誰でも自己表現ができるので可能性を感じた。
- ・ 支援が必要な人もそうではない人も大差ないことを互いに知るきっかけになる。
- ・ ワークショップやアートを見ると他者とのつながりを感じられる。
- ・ 孤独や孤立の当事者にとって、アートの伝える力はとても影響力があると感じた。
- ・ 孤独や孤立は目に見えない、生きづらさがある。目に見えないからこそ、アートを通じて見えないものが見えた気がした。

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_座間市

【C.試行的事業】_2.啓発のための学習会

概要	- 名称：座間ではじめるやさしいまちづくり - 日程：2024年2月4日（日） - 会場：喫茶ランドリー ホシノタニ団地	結果	- イベントの参加者数（30人程度） - 満足度：およそ9割が「よい」または「とてもよい」と回答
工夫点	「福祉」を地域や日常に根付くものへと、より広義で活動的なものにする取組を実施している田中氏、今津氏をプレゼンターとして呼び、多様な分野の団体が孤独・孤立と関連していることを啓発。 - いわゆる福祉関係の団体だけではなく、これまで市としてつながりの少なかった団体・組織等をPFに参画してもらうべく行政のみならず関係団体を通じての呼びかけを実施。	ねらい	- PF参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識・理解向上を図る。 - 団体間での連携を図る。

プログラム内容

- プレゼン
 - 田中元子 (株)グランドレベル代表
 - 今津新之助 SOCIAL WORKERS LAB ディレクター
 - 林 星一 座間市地域福祉課 課長
- 参加者との意見交換

当日の様子

- チーム座間でこれまで連携してきた福祉にかかわる組織・団体と、サッカーチームなど新たな団体の間で新たな取組・活動のきっかけに。
- これまでの枠組みで連携してきた団体間でも、団体間で相談のできる関係にまで互いの取組を知るきっかけとなった。

主なプレゼン内容

- 孤独・孤立の取組に関して、福祉に関する活動やサービスの提供方法について、足し算方式ではなく、既にある資源や優しさを見つけ出し、それを活かす方法・考え方について紹介。
- 福祉に関わる活動に、福祉を専門に学んでいない人々や一般市民がどのように参加しているのか、特に異なる分野からの参加者がどのようにしてこの活動に関わっているのかを説明。
- 公園や公民館などの公共の場をより良くする事業を紹介し、地域コミュニティの活性化には、公共の場の活用が効果的であることを紹介。

主な意見交換の内容

- 参加者が自己紹介を行い、それぞれの役割、自らが関わっている孤独・孤立や広義の福祉に関する取組や社会貢献活動について共有
- 参加者間で今後の具体的な連携に向けたやり取りや話し合いや提案が行われた。
- 各団体での居場所を提供する取組が、住民にとって安心感を提供し、社会とのつながりを取り戻すきっかけになっているといった意見が多くあった。

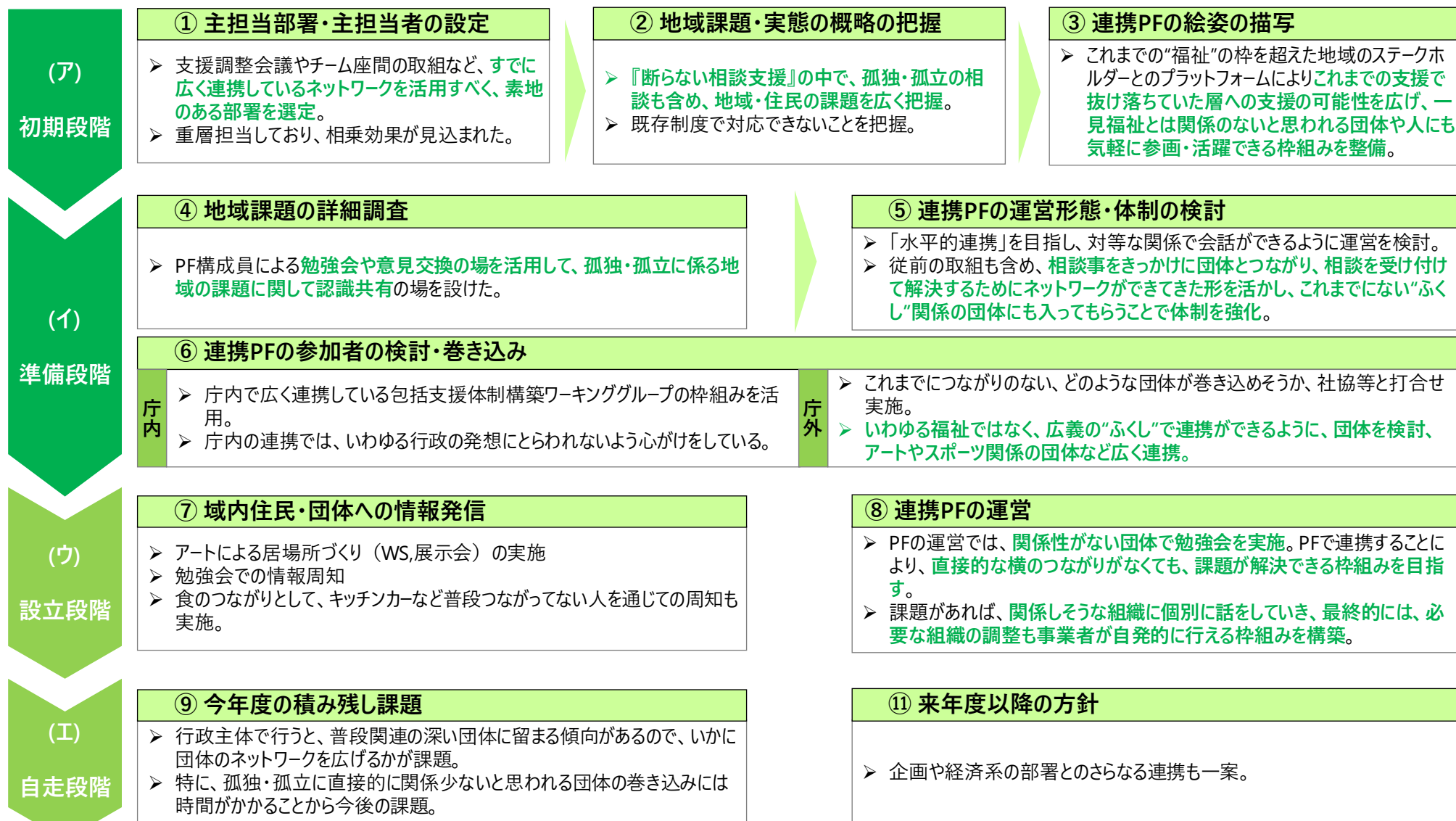
■ 学習会の様子



主な参加者

- | | |
|---------|---------------|
| サッカーチーム | 民生委員 |
| 保育園 | NPO |
| デザイナー | 大学生 |
| 社会福祉協議会 | 就労支援機関 |
| 葬祭事業者 | こども食堂・学習支援関係者 |
| 子育て支援組織 | 市議会議員 |

【D.留意点】



※今年度は、連携PFの設立準備期間であったため、⑦～⑩は、設立または自走段階に相当する内容を記載

【E.ブレイクスルー要因】

